

われもこう 第2号

1998年7月13日発行



われもこうの会
種々苗
おみやげ

里親希望者に
おずかて
いただきます。



里親
自宅の庭や畑で
春まで育ててください。

育った苗の半分は
「われもこうの会」へ

半分は
お庭で
楽しんで下さい。

松虫草とオミナエシの
里親になりませんか

「里親制度」についての
お問い合わせは、われもこうの会まで



今年四月、「われもこうの会」
ができ、新幹線工事のできた、空
き地に野の花を植えるポランティ
ア活動を始めました。よちよち歩
きの会ですが、沢山の方々の応援
をいただくことが出来ました。活
動を簡単にお知らせします。是非
あなたの力も貸してください。

園月峯 前沢の皆さんと耕す。
砂利だらけの融雪剤が入っている
悪い土。ニッコウキスゲなどの苗
を植える。(あとでトウモロコシ
かい？と聞かれて、ガツカリ)

蓬月 雑草を抜き、さらに苗を
植える。余り手をかけないで、軽
井沢らしい景観を造るのには、ど
うしたらいいのだろうか？

六月 ワレモコウ、オミナエシ、
マツムシソウ、とても元気！近所
の人たちが声をかけてくれるのが
とてもうれしい。秋が楽しみ。

前沢の原っぱ(北)

空き地に名まえがつけました

前沢の原っぱ(南)



「マツムシソウ」が一輪でも咲いたらビールパーティーをしよう！ (S)

「オミナエシ」の花見を楽しみにしています。 (G)

自分に関わると、通りすがりにも気になります。これは、とつても大切なことですね。 (T)

「軌道に乗り始めて、来年が楽しみです。」 (M)

「マツムシソウってどんな花かな？」 (H)

「かかって町のいたる所にあつた野の花が、さわやかではつとす以上の清涼感を与えることができる。見て触れて、感じるこの出来る町の修景を。」 (H)

「みんなの集まれる場所になるといいですね。」 (I)

「みんなの町、花いっぱいになる」といいね。 (T)

球根

クロッカスと水仙

「前沢の原っぱ」の早春をクロッカスと水仙でうめつくしたい！

そこで、たくさん球根が必要で

す。秋に植えますので、ただ今、われもこの会では球根をくださるかたを探しています。

「車いすから見た街」

岩波ジュニア新書
岩波 園芸

マウツ募集中

「われもこの会」のマークもデザインしてみませんか？

詳しくはわれもこの会事務局まで

この本おすすめ!



弁護士村田さんは、一才半の時小児マヒにかかり、歩けなくなつてしまつた。一人で街を歩く必要があるが、歩道橋を使えないので、道の向かいに渡るのに一・五キロも車イスで移動しなければならぬ。というが、色々な障害が多すぎる。軽井沢は、どうだろうか？

新しい視点で見直してみよう。

みなさん、ありがとうございました

大林さん-オミナエシ他/タカト-アグリさん-有機肥料/林さん-苗畑/土井さん-マツムシソウ他/土屋さん-土/神津さん-シヨウブ他/柳沢さん-オキナグサ/土屋さん-キキョウの種/藤巻さん-重機、植え付け/堀口さん-腐葉土/柳沢生花店さん-萩、ススキ/前友会の皆さん-植え付け他/柳沢さん-イカリソウ他/郷さん-ハーブ他/山崎さん-花の種/市川さん-赤たんぼほ/佐藤さん-ユリ/植物園の皆さん-ニッコウキスゲ、ワレモコウ他

軽井沢 植物園ことはじめ

—— 最初の三年間はボランティアだった ——

—— 今年で25年目を迎えた軽井沢植物園には、毎年10ヵ月間の開園期間中に2万5~6000人が訪れる。しかし最初の3年間は、佐藤園長のボランティアでこの植物園が造られた、ということでは知られていない。先日先生にその頃のお話をうかがってきた。 ——

73年春に、町が植物園を造った。しかしこれは、植物園とは名ばかりのもので、道路の拡幅で移植しなければならなかった木や、毎年の氷まつりに使った枯れかけた縦の木を植えただけのものだった。いつか植物園を造りたいと思っていた佐藤先生は、自宅の庭に色々な植物を育てていた。この個人的なコレクションを移植することから仕事が始まった。その頃の植物園は、ヨシが一面に生えている“ヤチ”で、水はけが悪く非常に単純な植生だった。

教職を定年退職した佐藤先生は、朝6時半ごろから、日が暮れるまで働いた。たいへんだったのは、土壌改良のために、暗渠を掘ったことだ。手で幅70~80cm、深さ1mの暗渠を掘り進め、植物園全体に葉脈のように張りめぐらしていた。いまアリーナの前にある池に排水が流れるようになっている。勤労者体育館の立っているあたりが崖で、廃コンクリート等が捨ててあったので、それを拾ってきて暗渠に埋めた。この仕事に5年かかった。

それと同時に植物の植え付けをした。予算が無いので、建設課が廃棄したシャベルや鎌、一輪車をもらって使った。課の人が手伝いに来てくれたが、基本的には、1人で働いた。困ったのは、建設課ではクワは、使わないので貰えなかったことだ。

76年6月から初めて辞令が出た。その頃、『婦人の友』に植物園のグラビア記事がでた。そのなかに写っているオオバボダイジュの苗が、今では、一抱えもある太木に成長している。



かつては、軽井沢のどこにでも生えていたアズマギク、ムシャリンドウ、オキナグサ、ミズオトギリ等がなくなってしまった。牧草地として人が定期的に

野火を付けていたために木が大きくなり、花がたくさん咲いていた景色は、すっかり変わってしまった。軽井沢の空気も、小諸、上田、長野などに比べより汚染されているという県の調査もある。こんなことも植物の減少に影響しているのかもしれない。

—— 淡々と語る佐藤先生、植物を愛する人々が集まる植物園をもっともっと大切に守り育てていけたら、と思った。 <1998・6・24

文責「われもこうの会」>

